日本海事新聞

THE JAPAN MARITIME DAILY

2011年（平成23年）
11/17 木
第19134号
日刊（土曜・日曜・祝日休刊）
昭和17年12月28日
第3種郵便物認可

みなとオアシス全国大会

WF開発協会 神戸グランドアンカー

多数の参加者でにぎわう会場

（上から）長澤会長、川﨑会長、加藤審議官、小野副局長、小柴副市長、溝畑長官

みなとの魅力創出へ 活発に情報交換・議論

地元官民が主体となり地域振興を図りながら「みなと」の魅力創出と情報発信を展開する「みなとオアシス」の全国大会が11日、神戸市中央区の神戸波止場町TEN×TENで開かれた。当日は溝畑宏・観光庁長官や加藤由紀夫・国土交通省大臣官房審議官、小野憲司・近畿地方整備局副局長、小柴善博・神戸市副市長をはじめとする来賓と各地のみなとオアシス関係者ら約150人が、それぞれの取り組みについて情報交換するとともに、今後の活動について活発な討議を行った。

長澤宏昭・みなとオアシス全国協議会会長の開会宣言に続き、主催者の川﨑裕康・ウォーターフロント（WF）開発協会会長があいさつ。加藤審議官や小野副局長、小柴副市長が祝辞を述べた。

基調講演で溝畑長官は、「各地、各港の歴史や文化を地域全体で掘り起こした上で見つめ直し、それぞれの魅力としてまとめ上げていく作業が重要。今後のアジア諸国からの観光集客を考えると、それらを外国語を含めて情報を発信していく必要がある」と述べた。

続いて地元主催者、神戸グランドアンカーの村上和子理事長が神戸港での活動を紹介した後、全国の「みなとまち」が相互連携しながら地域振興を図る「マリンポートツーリズム」を提唱。神木哲男・神戸大学名誉教授は地域連携策への提言として平清盛の「みなとづくり」を紹介した。

また、各みなとオアシスの担当者がそれぞれの取り組みについて報告、それらについて活発な意見交換が行われ「マリンポートツーリズムを今後の活動に生かしていく」ことが決議された。

翌日には、神戸波止場町TEN×TEN周辺の「みなとづくり」を見学するツアーが実施され、約70人が参加。神戸港のみなとオアシスの現状を見学するとともに、さらなる情報交換を行った。